

第27回夏季大学実施報告

1993年8月4、5日の2日間、茨城県つくば市の気象研究所講堂で第27回の夏季大学が開催された。今回のテーマは「気候の科学」であった。講義の題目は以下の通りである。

- 8月4日：「気候の仕組み（千葉長・気象研）」
 「気候の数値モデル（住明正・東大気候センター）」
 「気候と大気の世界（森山茂・日大）」
- 8月5日：「温室効果（柴田清孝・気象研）」
 「温暖化の事実（新田勲・東大気候センター）」
 「温暖化の予測（時岡達志・気象研）」

27回を数える夏季大学が、会場を初めて気象庁から、茨城県つくば市に移して開催ということで、当初は参加者の減少が心配されたが、97名の参加があり気象研究所の講堂一杯であった。交通の便の悪さを、時宜を得たテーマと講師の顔ぶれで補い、また宣伝も比較的上まくいだったものと思われる。

アンケートには71名の協力があった（学会員27、非学会員44）。以下にその集約の一部を紹介する。

- 年齢層 ①10代5 ②20代21 ③30代21
 ④40代19 ⑤50歳以上5（最高71歳）
- 職業等 ①教職員35 ②学生16 ③気象関連業務8 ④その他14
- 都道府県 ①東京24 ②茨城21 ③千葉7 ④神奈川県6 ⑤宮城、埼玉 各3 ⑥栃木、愛知 各2 ⑦群馬、新潟、大阪、青森 各1
- 参加の目的 ①教材研究25 ②業務上の参考22 ③教養または趣味35 ④その他4
- 参加回数 ①初めて43 ②2回13 ③3回3 ④4回以上12（最多24回）
- 開催を何で知ったか ①「天気」33 ②「気象」15 ③新聞1 ④ダイレクトメール24 ⑤その他9（知人の紹介など）
- 受講料 ①高い11 ②適当55 ③安い5
- 開催時期の希望 ①7月下旬16 ②8月上旬45 ③8月中旬5 ④8月下旬3 ⑤その他1（6月頃）
- 開催地の希望 ①気象庁21 ②つくば41 ③関東近県持ち回り6 ④その他5

参加者の都道府県別で茨城の21名が東京の24名に次いでいること、またその多くが中・高校の教職員であったこと等に、茨城県下の全高校長宛にダイレクトメールを送った効果が見て取れる。昨年の「天気予報を支える科学」の時には、例年と比べて教職員の比率が1/3弱に減り、天気予報に密着した職業の人の割合が多かったが、今年はまだ、例年どおり教職員が全体の約半数となった。

開催地の希望については、東京からの参加者は予想通り、交通の便の悪さを指摘して東京開催を希望する人が多いが、茨城からの参加者の多くは、つくばを支持し、つくばで開催されたから参加したという人が多かった。今回の経験は、テーマと講師の選定を慎重に行ない、ダイレクトメール等宣伝の工夫を厭わなければ、東京以外でも十分実行可能であることを実証した点で画期的な夏季大学であったと、手前味噌になるが自賛している。また、研究施設等の見学が好評だったことから見て、見学コースを設定できる所が望ましい。

講義そのものについても全般に好評で、「気候」「地球温暖化」等の問題について、初めて全体的な理解を持つうえで、役だったという意見が多かった。2日間6講座はコンパクトで、講義の順序、テキストの編集が良く、理解を容易にしてくれたという、委員会にとっても大変嬉しい意見をよせてくれた人もいる。反面で、参加者の半数が「教育のプロ」ということを反映して、教授法・理解してもらうための工夫と言った点ではかなり厳しい指摘もあった。この点では、一般的にいえば、最先端の研究者も、専門家以外の人に理解してもらうという点でのより一層の工夫が必要とされているのであろう。

前々回までの夏季大学は4日間（1日2講義）で行なわれていたものを、前回から3日間（1日3講義）とし、その日程がおおむね好評だったので、今年も1日3講義を踏襲した。但し、今年は天気図実習を外して、2日間の日程とした。天気図実習についてのアンケート結果は、①従来通りあったほうがよい24、②どちらでもよい33、③その他12、ということで、外した今年について、どちらでもよいが33名ということは、委員会としてどう判断したらよいか難しいところである。

なお、今回の夏季大学ではこれまでのアンケートで

要望の高かった懇親会(会費2,000円)を初めて行ない、都合のついた講師の先生方・事務局メンバーを含めて28名の参加で盛り上がった。地学教育、学生、研究、気象関連業務等種々の職業の人が気象という1つのキーワードで一堂に会する機会というのも考えてみれば稀なことなのであろう。2日目の日程を考えて、事務局が打ち切りを宣したのであるが、何人かの方は、語り足りない観であった。これについても、非常に好評で費用はもう少し高くしてもよいから、全員参加に近い形で、ぜひ次回も考えて欲しいという意見がかなりの数あった。その他、講義をビデオにとって販売し

て欲しい、年2回くらい開催して欲しい、予報士試験を対象とした講座の希望等、気象学会の普及活動に対する期待の大きさに驚かされる。これ以外にも多くの貴重な意見を頂戴した。全ては紹介できないが、今後の運営に生かしていくつもりである。

なお、今回のテーマも好評で、例年のテキスト部数(500部)では足りなくなり300部増刷した。まだ残部がありますので、ご希望の方は**気象学会事務局**(TEL 03-3212-8341 内線2546; FAX 03-3216-4401)へご連絡ください。1部1,000円(送料は学会負担)です。

(教育と普及委員会)



財団法人神奈川科学技術アカデミー 平成6年度研究助成・集会助成募集案内

【研究助成】

・助成対象

主として神奈川県在住、在勤(近県を含む)の若手研究者(概ね40歳以下)による先端的科学技術分野(自然科学系)の創造的基礎研究。

・助成方法及び金額

三段階の段階助成方式

第一段階：50万円程度/件

第二段階：250万円程度/件

第三段階：500万円程度/件

を採用。ただし第二、第三段階は前段階終了者のみ。

(平成5年度実績：第一段階31件、第二段階6件、第三段階1件)

平成6年度は第一段階50万円まで、30件程度を公募。

・応募締切：平成6年2月28日(月)

【集会助成】

・助成対象

平成6年度に神奈川県内で開催される研究集会を対象に助成を行います。

(平成5年度実績：国内研究集会6件、国際研究集会6件)

・助成方法及び金額：

国内研究集会：100万円以内/件

国際研究集会：200万円以内/件

・応募締切：(前期)2月28日・(後期)7月29日

・問合せ、申請用紙請求先：

(財)神奈川科学技術アカデミー
学術交流部交流普及科

TEL 044(819)2032 FAX 044(819)2026